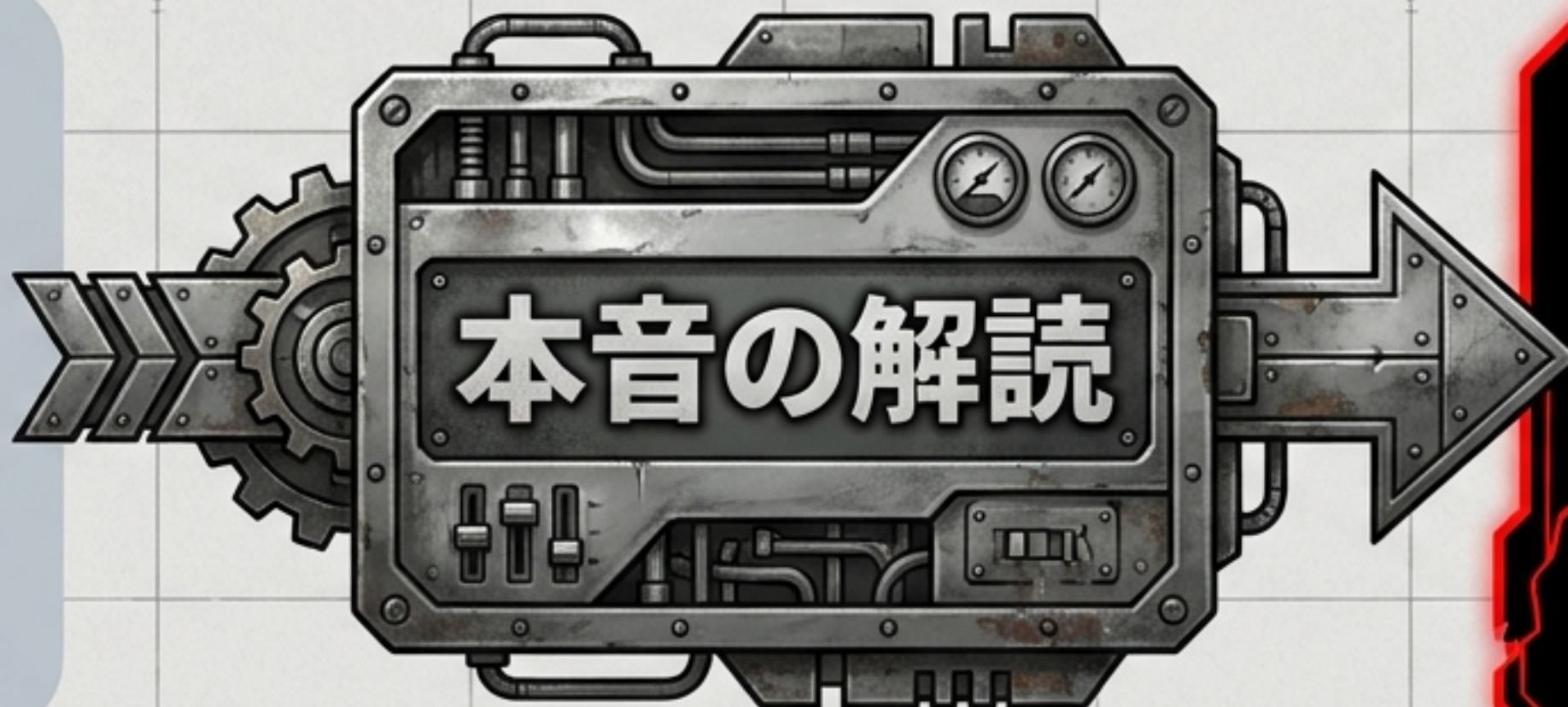


「参考にします」は、
変化の拒絶である。

丁寧な言葉を捨て、泥臭い『一歩』で境界を突破せよ

The Playbook for Breakthrough

「ありがとうございます。
参考にします」



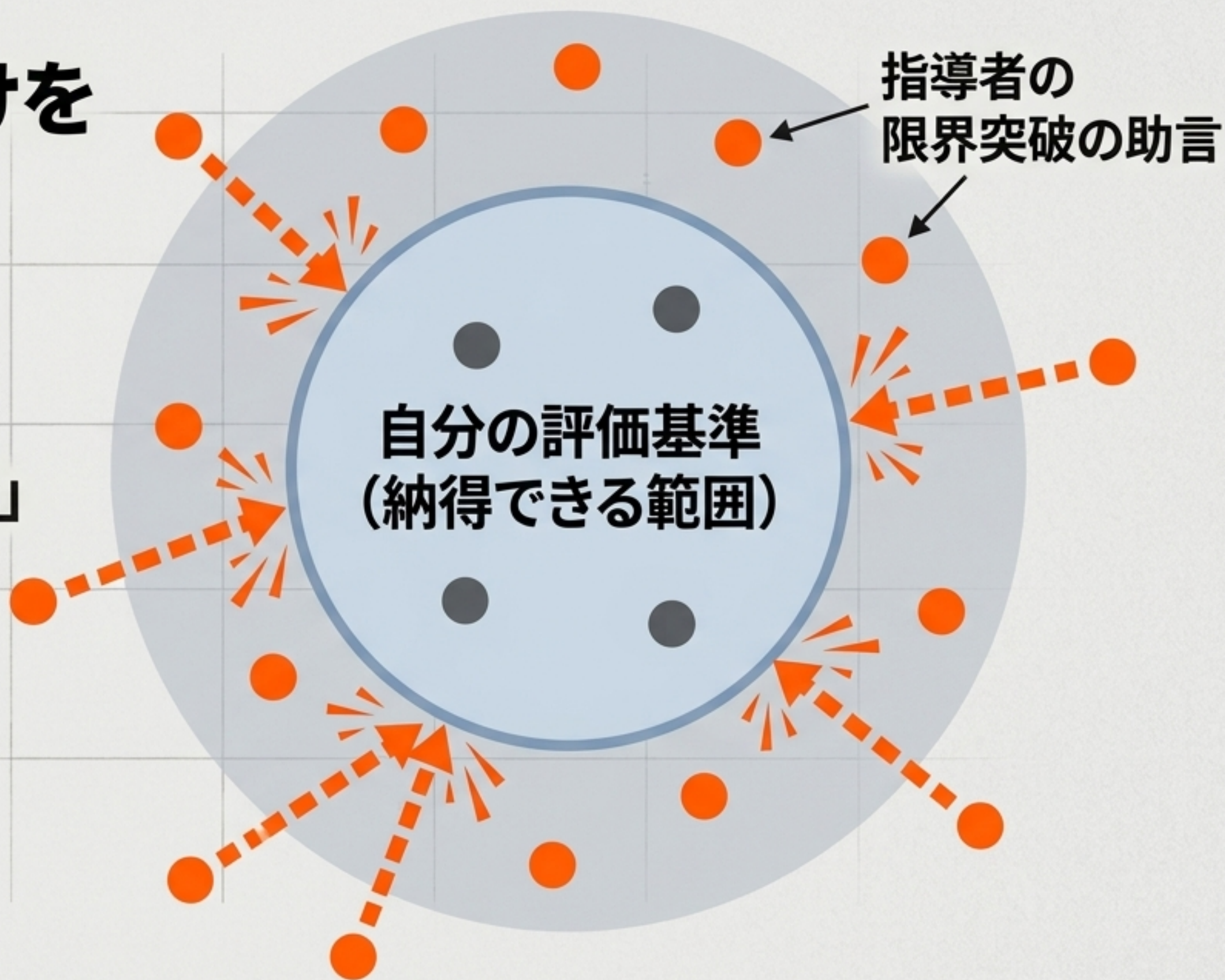
「(絶対やるとは言いません。)
今まで通りに
します」

丁寧な言葉は、誰も傷つけず、自分も変わらずに済む「完璧なシェルター」。
私たちは無意識に、変わらない自分を守り続けている。

The Illusion of the Safety Zone

「納得できる助言」だけを選ぶ致命的な罠

今の自分の評価基準のまま
選別を行っている限り、
絶対に「今の自分の枠(天井)」
の外へ出ることはできない。
思考の限界は、
1ミリも上がらない。



The Playbook for Breakthrough

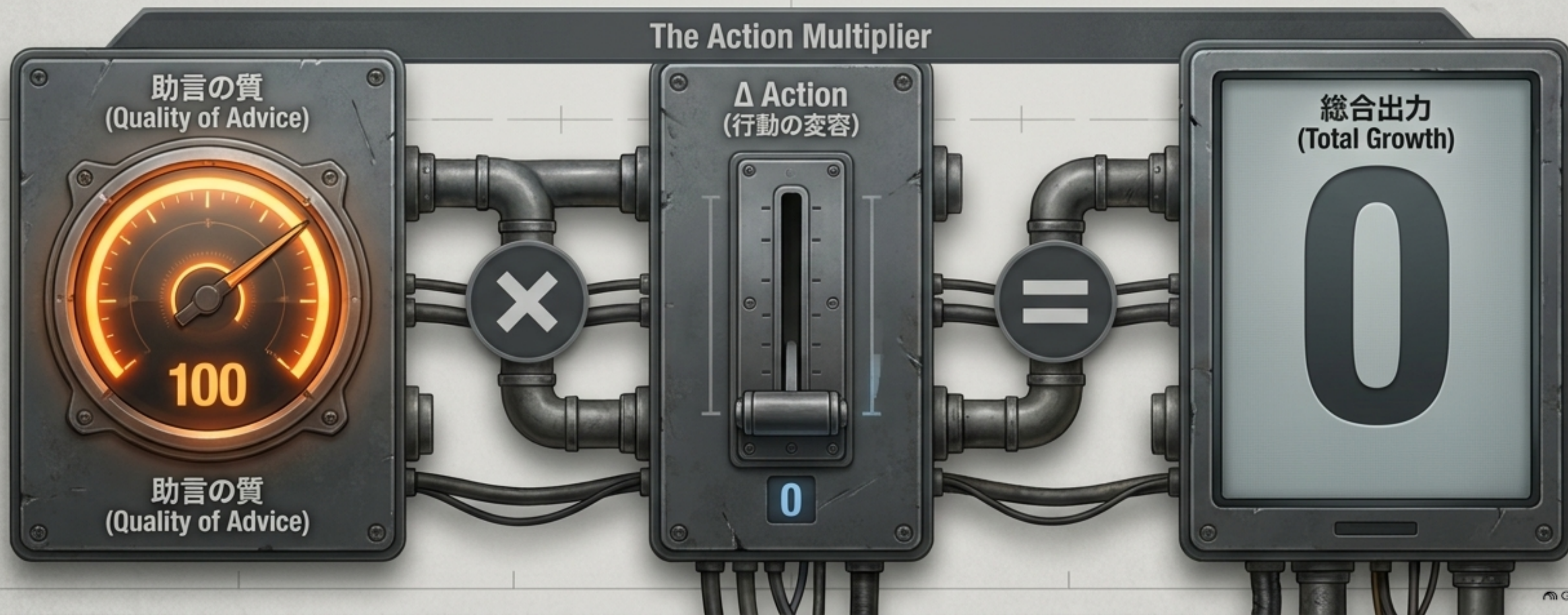
$$\text{成長量} = \text{助言の質} \times \underbrace{\Delta \text{Action}}_{\text{(行動の変容)}}$$

聞く姿勢とは、その場の丁寧な返事ではない。
その後の「行動」にしか表れない。

The Playbook for Breakthrough

行動がゼロなら、すべてがゼロ。

どんなに優れたアドバイスを引き出しても、行動の変容 (Δ Action) がゼロであれば、
得られる成長は残酷なまでにゼロである。



	偽りの優等生 (Safety Zone)	泥臭い挑戦者 (Breakthrough)
受けた時の言葉	「参考にします」	「反論します」 「次こう変えます」
心理状態	自分を守る・心地よい 助言だけ選ぶ	恐怖と摩擦の受け入れ
行動変容 (Δ Action)	ゼロ (変わらない)	不格好でも試す
最終的な結果	成長ゼロ・対話の遮断	限界の突破・真の対話

表面上の優等生的な返答は、指導者との相互理解の機会を自ら遮断している。

衝突を恐れるな。 「反論」こそが 対話の始まりである。

「ここが分かりません」
「私はこう考えています」
という双方向の不器用な
ぶつかり合いこそが、
言葉に命を吹き込む。
「分かりました」
という返事が、
分かり合う機会を
閉ざすのだ。

インサイト / 真の指導の始まり

指導者の助言

生徒の反論・違和感

The Dialogue Clash



「言われた通りに
やってみました。
しかし、ここで
詰まってしまいました」

完璧ではなく「試した事実」を差し出せ

試して転んだ生のレポート(事実)こそが、
指導者に対する最高の誠意であり、
次への突破口となる。

助言を即行動に変える 「3ステップ応答法」

ステップ3：検証

実行した結果（成功・不快感・失敗）をありのまま指導者へフィードバックする。

ステップ2：宣言

「次回、〇〇を意識して
〇〇に変えてみます」と
具体的に言葉で返す。

ステップ1：決定

助言の中から「次の練習で
変えること」を1つだけ選ぶ。

本質を射抜く究極の格言

**「丁寧な返事は自分を守り、
泥臭い一歩が自分を変える。」**

**『参考にします』を捨て、
『次の練習でこう変えます』と言え。』**

助言を「参考にしました」で終わらせず、「あの言葉で自分の行動がこう変わりました」と言える領域まで突き進め。